

巳

〔和漢船用集五〕舟名數江湖川船茶船 攝州川々荷物運送の舟拾石積なり又屋形茶舟有其名もと茶を煮て賣し船なるよし遊山舟の名ともすべし其制海舟作りにして淺川を行瀬越舟とすべし上荷とは制各別也或は江戸茶舟と云も名は同じふして製造異也

〔嬉遊笑覽二〕器用茶船といふは童蒙先習十いそがはしきもの茶舟こぐ凡度量のびざる奉行の事をなすは茶舟こぐに同じ俳諧染糸千句の内に湯の山で見たる名所をかたられよ茶舟こぞつてさても寝がたき此句遊の渡船などちよき船などの出こぬ前には此船もいそがはしきものにてありしなるべし茶筥にて茶をたつるは急なる物ゆる准へて此船の名とまたるにや又は茶屋などの如く客を載て憩息せしむる意にや風流徒然草に二挺大三挺をおさせとみえたる大三挺は今のにたり舟をいふ歟大茶船は後に出来る物と見ゆ昔の茶船はこにたりを荷足と書れ共もと其義にはあらし三挺などに似たるのか

茶舟はもと大船の荷物を分ち載て運送する爲の舟なり上荷よりも小き舟を云ふ永代藏一難波橋より西見わたし云々上荷茶船かぎりもなく川波に浮びしと云へり上荷舟は廿石積なりとも堀江舟は三十石もあるなり茶舟は十石の荷物を運送の舟なりとぞ當時大坂七村に荷舟九百廿艘申舟六百七十二艘新上荷茶舟五百艘茶舟千三十一艘堀江舟五百艘都合三千六百二十三艘となむ

〔守貞漫稿五〕生業茶船大坂ヨリ漕シ來ル樽及菱垣船トモニ品川浦ニ繋ギ此茶船ヲ以テ諸買物ヲ川岸ニ傳ヘ漕ス乃チ大坂上荷船ト同用ノ舟也鐵炮洲及大川端町ニ此屋アリ號ケテハシケヤト云茶船米六十五石積ヲ本トシ此運賃銀十八匁五分也蓋船士一人也三人ヲ用フ時ハ別ニ二人ヲ雇ヒト云一人各三百錢也然モ米百二三十石ハ積得ル也本運賃ニ准ジ賃銀ヲ増ス新制